

ちばの地域福祉

「新しい年を迎えて」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

会長 渋沢 茂

あけましておめでとうございます。旧年中も私たち中核地域生活支援センターの活動に多くの皆様のご協力とご理解をいただき、ありがとうございました。

今から30年前、知的障害のある子どもたちが暮らす施設で仕事を始めました。ノーマライゼーションが言われ始め、グループホームが制度化される直前の時代でした。文字通り子どもたちと暮らしながら障害者福祉のことを考えていました。その頃は30年後の今を想像すらしていませんでした。自分のことも社会のことも福祉のあり方についてもです。

これから30年後、福祉のあり方はどう変わっているのでしょうか。

まず思うのは、縦割りの福祉が分野統合され、さらに福祉が福祉制度から脱却するのではないかとことです。良い意味でも良くない意味でもです。そう思う理由はいくつかあります。

従前は社会福祉事業を行うことが出来るのは、社会福祉法人と自治体に限られていました。30年前には千葉県内に通所施設は数えるほどしかありませんでした。ヘルパーもデイサービスもありませんでした。2003年の支援費制度と3年後の自立支援法の後、在宅生活を支える事業所の数は激増しました。NPO法人や株式会社等、様々な人たちが参入してきました。従来は行政が行ってきたソーシャルワークの機能が多分野で民間に委託されるようになりました。良い面もそうじゃない面もあります。福祉が事業になっています。

高齢者や障害のある方、これまで福祉の受け手だった人たちが働き手として期待されています。配慮や支援が必要とされていた外国人の方の働き方も変わってきています。人口構造の変化の中でこの流れは加速するのだと思います。

福祉と他分野の協働も進んでいます。福祉事業が農業、芸術、地域振興等々と交わってきています。教育や医療、行政、司法等の従来は福祉との関りが薄かった領域での協働も進んでいます。多分野の垣根が下がり続けています。

現在、地域共生社会、地域包括ケアシステム、総合相談と、分野をまたいだ仕組みづくりがしきりに勧められています。これらはどのような果実を実らせているのでしょうか。

もう一つ考えたいのは文化の継承のことです（*文化＝人間が社会の成員として獲得する振る舞いの複合された総体：Wikipedia）。

障害を持った方の福祉は、当事者の方たちが切り開いてきました。知的障害を持った方の親の会の活動、身体障害の方の自立生活運動、聴覚障害者の方のろうあ運動等々です。近年でいえばLGBTやHIVキャリアの方々の運動もそれにあたるでしょうか。

僕は、様々な当事者の方々とは違う立場ですが、発する気持ちを共有したいと思います。福祉が事業になっても当事者の方の思いを届けること。今も、30年後もそのことは変わらずにあり続けたいと思います。

次の30年に向けての1年目が始まります。本稿をご覧ください。全ての皆さんと一緒に30年後に向けての一步をご一緒させていただきたいと願っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

『あいネット』の地域づくり(柏圏域)

・柏市は・・・

柏市は千葉県の東葛地域と呼ばれる北西部に位置する中核都市で人口は約 42 万人です。柏市は県北西部の東葛地域に位置しており、中核市、また業務核都市に指定されています。中央には東武野田線や JR 常磐線、国道 6 号や 16 号が交差するなど交通の要衝となっています。

・運営委員会・・・

運営委員会は、地域住民や生活困窮者等の現状を把握した上で適切な支援を実施するため、市の関係部署及び関係団体、地域団体との情報共有並びにネットワーク構築に向けた検討を行うことを目的として定期開催しています。

例年、柏市内の医療、福祉、就労、法律各分野の団体・機関にご参加いただいています。

各分野で地域の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域の現状や課題などについて意見交換を行っています。

・ボランティア活動を通じた居場所づくり

柏市社会福祉協議会を通じてボランティア団体「一球会」を紹介していただき、活動に参加しています。

「一球会」は 70 歳以上の方 10 数名で構成され、「手賀沼を彼岸花とスイセンの名所に！」を合言葉に活動されているボランティア団体で、参加日の活動内容は柏市のホームページにも掲載されています。ひきこもりの方や障害をお持ちの方、そうでない方等、あいネットに相談をしている利用者さんと職員とで参加しています。その他にもボランティア団体「柏 530 会」の活動に参加し、地域の中で利用者の居場所づくりへ向けた取り組みをおこなっています。



・出前講座

地域の団体や機関（民生委員・教会・大学・行政など）から依頼を受けて行っています。相談支援を通してみえてくる地域の現状や課題を発信していくことで、微力ではありますが地域づくりの一旦を担っているのではないかと感じています。

『さーくる』の地域づくり(船橋圏域)

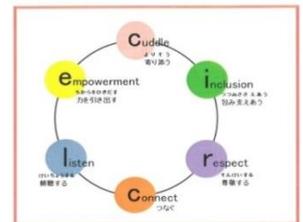
【「さーくる」とは】

「船橋市保健と福祉の総合相談窓口さーくる」は、平成24年12月、船橋市の事業として開設されました。その後、平成27年4月より生活困窮者自立支援事業が全国で施行され、船橋市では「さーくる」の機能を拡大する形で生活困窮者自立支援事業も開始しました。

【さーくるでの実施事業】

- 総合相談窓口
- 生活困窮者自立支援事業（自立支援・家計相談・住居確保給付金・就労準備）
- 無料職業紹介事業

さーくる (circle)



【地域の皆様との交流 ～地域連絡調整会議～】

さーくるの周知と顔の見える関係づくりを目的として「地域連絡調整会議」を、10月から11月にかけて市内5か所で開催しました。民生委員や地区社会福祉協議会の皆さま、地域包括支援センターや在宅介護支援センター、行政職員など、およそ130名の方々に参加していただきました。

今回は、さーくるの事業説明や実績報告に加え、テーマを「地域で起こりがちな住まいに関する困りごと」と題し、船橋市居住支援協議会で実施している「住みえるサポート船橋」という高齢者や障害者などの住まい探しの相談窓口のご担当者をお呼びし、事業説明や実際の入居支援事例も発表していただきました。

船橋市では、平成28年度に居住支援協議会が設置され、さーくるも生活困窮者自立支援事業所としてメンバーになっています。高齢者や障害者など住まい探しに困りやすい方の相談窓口として、さーくるとも密に連携と取らせていただいています。



【市役所各課の顔の見える関係づくりを ～庁内連絡調整会議～】

市役所関係各課を対象として、顔の見える関係を深めるため、庁内連絡調整会議を開催しています。昨年度は、さーくるの事業説明や事例報告に加え、参加者同士のグループワークを実施しました。「日頃の業務の中で生活困窮のシグナルに気が付くことがあるか、その場合、どうしたらよいのか」というテーマで、お互いの課の業務内容を情報交換するとともに、どのような場合にさーくるにつなぐかのイメージづくりをしてもらいました。今年度も開催を予定しています。

さーくるは開設されて6年が経ったところです。今後も、総合相談窓口として相談される方の声に丁寧に耳を傾け、名前の「さーくる」のように、少しずつ地域の人たちとの顔の見える「輪」をつなげていきたいと思っています。引き続き、みなさまのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人コリアNGOセンターは、教育・人権・平和と各フィールドで活動していた3つの在日コリアン（朝鮮半島にルーツを持つ日本在住者）の団体が統合する形で2004年に結成しました。「多文化の街」として賑わう新宿区大久保と、全国一の在日コリアン多住地域で「コリアタウン」商店街がある大阪市生野区に事務所を置いています。民族教育、在日外国人の人権保障、朝鮮半島の平和統一と東アジア共同体の形成、日本とコリアの市民・NGO間交流・協力など幅広い課題に取り組んでいます。

活動の一つに、法律・生活相談（日本語と韓国語対応）があります。たとえば、「韓国にある親名義の不動産の相続手続きはどうしたらいい?」、「朝鮮籍者と日本籍者の結婚／離婚手続きはどこで行うの?」といった、在日コリアンならではの法律上の課題に直面することがあります。またアイデンティティや被差別経験に関わる悩みは、同じ境遇にある者だからこそ話せる場合も多くあります。そうした相談事に常駐の専門スタッフが電話や対面で相談を受け、必要に応じて弁護士・行政書士などの専門家につなげます。

コリアNGOセンター 金朋央 (Kim Boong-Ang)

ホームページ：<http://korea-ngo.org>



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

平成30年度千葉県地域福祉フォーラムシンポジウム

「災害に備えた地域づくりを考えてみよう」～手を取り合って助け合う～

- 日時：平成31年2月17日（日）12時40分～16時（受付開始・開場12時～）
- 会場：千葉市生涯学習センター 2階ホール ●参加費：無料 ●定員：300名（先着順）
- 内容：【基調講演】 「災害に備えた地域づくりを進めるために」

＜講師＞ 国際医療福祉大学医療福祉学部 教授 小林 雅彦 氏

【シンポジウム】 テーマ：「災害に備えた私たちの取組み」

1. 災害時要援護者への支援活動
2. 男女共同参画の視点から見た子育て世代の防災活動
3. 生徒主体の防災の取組み
4. 防災を切り口としたまちづくり
5. ITを活用した実践的防災活動

●お問い合わせ先：千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部 [担当] 佐久間・窪田

TEL043-245-1102

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：いちほら福祉ネット（市原圏域）市原市東国分寺台3-10-15

TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市0-838

TEL0479-60-2578 FAX:0479-60-2579